

連載 ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか―第9回― Jリーグクラブと公立図書館の連携

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

1. 全国で進むJリーグクラブと公立図書館の連携

近年、全国の公立図書館とJリーグクラブの連携が進んでいる。北九州市立中央図書館の玄関ホールに2012年4月からギラヴァンツ北九州コーナーが設置されており（写真1）、八幡図書館でも2013年10月にギラヴァンツ関連の期間限定企画展示が行われた（写真2）。

現在、Jリーグクラブは全国で40クラブであるが、その大半のホームタウンにおいて図書館との連携が行われている。筆者は2013年8～9月に、仙台市立泉図書館、さいたま市立大宮図書館、熊本県菊陽町図書館、鳥取県立図書館を訪れたが、いずれも各図書館の視点を活かした、各ホームクラブやサッカーに関する充実した展示等が行われ、市民が気軽にJリーグクラブの情報等を閲覧したり、直近の対戦相手の情報や対戦相手のホームタウンの観光情報等をえることができたりする取り組みが行われていた。

訪問先の図書館員にお話しを伺うと、地域に役立つ公共性の高い図書館を目指し、様々な工夫に取り組んでいる図書館は少なくない。ここ1年あまり、九州内の、とある図書館に世間の関心が集まっているが、他の図書館も努力を重ねているのだ。その一端が、Jリーグクラブとの連携による相乗効果を目指した取り組みである。今回はこれについて概要をご紹介します。

写真1 北九州市立中央図書館での展示例



(出所)筆者撮影(2012年4月)

写真2 八幡図書館での企画展示



(出所)筆者撮影(2013年10月)

2. Jリーグクラブと図書館との連携の経緯・ねらい

天野（2013）によると、図書館においてサッカーに関するコーナーを設ける先駆けは1997年のさいたま市立東浦和図書館に遡るが、Jリーグクラブと図書館の本格的な連携が始まったのは2009年頃からであり、最近のことといえよう。小林（2012）によると、2009年に川崎フロンターレ（J1）と川崎市立図書館の連携が始まり、選手による小学校での本の読み聞かせ等の取り組みが進められた。2010年には愛媛FC（J2）と愛媛県立図書館の連携が行われ、J2所

属で著名な温泉地を有するクラブ同士の戦いを盛り上げる観点から、ザスパ草津（J2。現：ザスパクサツ群馬）および草津町立図書館との「温泉ダービー」企画を実施している。

折しも、2010年1月には全国の有志の図書館が「図書館海援隊」を結成し、ハローワーク等と連携した貧困・困窮者支援をはじめとした「具体的な地域の課題解決」に資する取り組みを開始した。そこでの活動と上述の先駆的な取り組み等をもとに、さらに有志のメンバーが、地域活性化に向けて、Jリーグクラブと図書館の連携を進めたい、との思いで集まり、「Jリーグと図書館の連携研究会」（2010年5月設立。2011年2月「図書館海援隊サッカー部」に改称。）を立ち上げた。2010年10月には、これらのメンバーが核となり、秋の読書週間において「住民にスポーツと読書の楽しさや、Jリーグを中心としたサッカーのクラブチームと公立図書館の存在意義についての理解を深める事業を実施することにより、地域活性化につなげること」を目的とした「『図書館からスタジアムへ行こう！！スタジアムから図書館へ行こう！！』全国同時キャンペーン事業」を実施した。この事業は文部科学省、Jリーグ、ビジネス支援図書館推進協議会等が協力し、全国で多様な取り組みが行われた。この活動の意義・目的等について、「Jリーグと図書館の連携研究会」は図1のようにまとめている。

改称後の図書館海援隊サッカー部は、このキャンペーン以降も図書館の全国のネットワークを活かして積極的な活動を行い、全国にJリーグクラブと図書館の連携の輪が広がってきている。同組織は、事業概要を以下のように記している（次ページ）。

全国の図書館におけるJリーグクラブとの多様な連携の現況については、図書館海援隊サッカー部 Facebook で閲覧可能である（Facebook の利用登録を行ってなくても可）。関心のある読者は、ぜひご覧いただきたい（<https://www.facebook.com/japan.football.library>）。

図1 プロスポーツ(クラブチーム)と図書館の連携の概念図



(出所) 文部科学省 HP (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/11/1299313.htm)

図書館海援隊サッカー部のミッション

住民にスポーツと読書の楽しさや、Jリーグを中心としたサッカークラブチームと公立図書館の存在意義についての理解を深める事業を実施することにより、地域活性化につなげること。

<事業の背景>

■地域を元気にする起爆剤＝サッカークラブチーム

Jリーグの発足以降、「地域密着」を理念として掲げ、選手やスタッフなどは、試合の運営やプレーだけでなく、地域へ積極的に働きかけ地域住民とともにさまざまな地域の活動に取り組んでいます。

一方、地域住民も試合を観戦するだけでなく、ファンクラブや後援会への加入、ボランティアとして試合運営に参加することなど、様々な形でチームを支えています。

この動きは地域に大きな影響を与え、経済効果だけでなく、ホームタウン地域の情報を全国へ発信する効果、青少年の健全育成や世代間の交流促進の一助になっており、地域活性化のための「新たな地域資源」として注目されています。

■これからの図書館。それは「地域を支える情報拠点」

「これからの図書館像」(これからの図書館の在り方検討協力者会議、2006年)では以下のことが提言されています。

- ・図書館活動の意義の理解促進や課題解決支援機能の充実
- ・多様な資料の提供、児童・青少年サービスの充実などに取り組むこと

図書館は地域や住民にとって役に立つ存在意義を確立し、「地域を支える情報拠点」として地域の活性化に貢献することを目指しています。

■図書館 × サッカークラブチーム＝「地域活性化」

私たちは全国各地で同時にサッカークラブチームと図書館とが連携して、さまざまな企画を展開することを提案します。これまでに述べたように、サッカークラブチームと図書館の目指すところは同じ「地域活性化」です。この両者が連携することで、地域の中で「スタジアムから図書館へ、図書館からスタジアムへ」と人を流動させ、さらに、図書館やサッカーの無関心層をも巻き込んで、地域社会を元気にできるのではないのでしょうか。一館でも多くの図書館にご参加いただき、ともに地域を、そして日本を元気にしようではありませんか！(後略)

(出所) 図書館海援隊サッカー部 Facebook ページ (2013年9月時点) より抜粋

3. 北九州における展開

前述の全国キャンペーンが行われた2010年は、ギラヴァンツにとってJリーグ加盟初年度であったが、ギラヴァンツと図書館の連携は行われなかった。北九州でこの取り組みが始まったのは、2011年7月に鳥取市で開催されたガイナレ鳥取 vs. ギラヴァンツ北九州に向け、鳥取県立図書館から北九州側へ交換展示（両チームのユニフォームや関連書籍、観光パンフレットなど）の依頼があったことが契機である。北九州側の民間有志にボランティアで尽力いただいた結果、図書館ではなく北九州市立大学魚町サテライト（当時）で展示を行い、市民に情報発信することとなった。なお、観光パンフレットの展示は、鳥取へ応援に行く北九州サポーターへ鳥取県内各地の観光情報を事前に提供し、北九州・鳥取双方でスポーツ・ツーリズム^(註)の効果が一層発揮されることを期待したものである。

2012年からは、図書館利用者等にギラヴァンツの存在や試合情報を告知すること、および関連書籍を通じてJリーグや図書館、あるいは対戦相手の本拠地等に対する関心を高めることを目的として、北九州市立中央図書館（小倉北区）の玄関ホールにおいて常設のギラヴァンツ北九州コーナーが設置されている。このコーナーでは、ギラヴァンツやJリーグに関連する各

種情報、書籍、北九州市立大学都市政策研究所で取り組んできた関連研究成果等の展示を行っており、対戦相手と交換展示を行う際は対戦相手のユニフォームやマスコット、観光パンフレットなどの展示を行っている。なお、現在、北九州での展示はギラヴァンツ北九州後援会（事務局：北九州商工会議所）、北九州市、北九州市立大学都市政策研究所によって構成する「ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議」が担当している。ここでの展示の特徴の1つとして、北九州市立本城陸上競技場で開催される試合の告知ポスターを、ギラヴァンツサポーターの「まいく・ラガ」氏がボランティアで作成した多数のイラストをベースに作成している点があげられる。同氏のギラヴァンツ関連イラストはJR 黒崎駅などにも掲示され、親しみやすい情報提供に結びついている。リーグクラブと公共施設、サポーター等が結びついた、新たなネットワークによる社会貢献の例といえよう。

また、2013年の夏休み期間には、市立八幡図書館（八幡東区）が実施している「仕事人☆おはなし会」（職業人が各職業に関わる絵本を読み聞かせするイベント）のシリーズの1人としてギラヴァンツの選手が登場し、子ども達に読み聞かせを行った。その後、同図書館側の企画により、2013年10月の1ヵ月間、ギラヴァンツ関連グッズや写真、市民の寄せ書き等の展示も行われた。

この他、図書館とは異なるが、北九州市漫画ミュージアムにおいては2012年に「ギラヴァンツの選手の好きな漫画」に関する企画展示が行われた。これは、選手へのアンケートをもとに、選手の写真と、選手が選んだ漫画を合わせて展示するものであり、漫画ミュージアムの特色を活かした好企画であったといえよう。

4. 北九州での今後の課題

図書館海援隊サッカー部は、一連の活動を通じ、「選手と本と図書館の魅力を同時に発信することで読書振興・図書館振興につなげる」、「地域経済の活性化に貢献する」、「各種印刷物やグッズをアーカイブし、チームの歴史を後生に伝える」こと等の実現を目指している。北九州でもこうした状況を目指し、市民、ギラヴァンツ、図書館、行政、大学等が一層連携を強化することが必要である。ギラヴァンツや図書館は地域社会・地域経済の活性化に資する大きな可能性を有する存在であり、その能力をより一層発揮できるように地域で支えていきたい。

注

(注1) スポーツ・ツーリズムについて、観光庁などで構成するスポーツ・ツーリズム推進連絡会議は、「スポーツを“観る” “する” ための旅行そのものや周辺地域観光、スポーツを“支える” 人々との交流、国際競技大会の招致・開催など、複合的な“豊かな旅行スタイルの創造” を目指すもの」としている。

参考文献

- 天野奈緒也（2013）「図書館と地域のプロスポーツの連携－2009～2012年の動向－」、『図書館雑誌』107(2)、pp. 96～97
- 小林隆志（2012）「Jリーグと図書館の連携が地域にもたらすもの～ビジネス支援と地域活性化の関係性～」、第14回図書館総合展図書館海援隊サッカー部フォーラム資料
- 南博（2013）「北九州市立中央図書館でのギラヴァンツ北九州紹介展示について」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における「集客」の現状と課題』、pp. 39～43